

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年8月10日(2006.8.10)

【公表番号】特表2006-506969(P2006-506969A)

【公表日】平成18年3月2日(2006.3.2)

【年通号数】公開・登録公報2006-009

【出願番号】特願2004-521702(P2004-521702)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	47/14	(2006.01)
A 6 1 K	47/16	(2006.01)
A 6 1 K	47/20	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 P	3/04	(2006.01)
A 6 1 P	3/06	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 P	5/06	(2006.01)
A 6 1 P	5/46	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	11/00	(2006.01)
A 6 1 P	15/08	(2006.01)
A 6 1 P	15/10	(2006.01)
A 6 1 P	25/20	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/06	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 0 7 K	14/47	(2006.01)
C 0 7 K	16/18	(2006.01)
C 1 2 N	1/15	(2006.01)
C 1 2 N	1/19	(2006.01)
C 1 2 N	1/21	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	47/14	
A 6 1 K	47/16	
A 6 1 K	47/20	
A 6 1 K	47/34	
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 P	3/04	
A 6 1 P	3/06	
A 6 1 P	3/10	

A 6 1 P 5/06
 A 6 1 P 5/46
 A 6 1 P 9/00
 A 6 1 P 11/00
 A 6 1 P 15/08
 A 6 1 P 15/10
 A 6 1 P 25/20
 A 6 1 P 29/00
 A 6 1 P 31/04
 A 6 1 P 35/00
 A 6 1 P 37/00
 A 6 1 P 37/06
 A 6 1 P 43/00 1 1 1
 C 0 7 K 14/47
 C 0 7 K 16/18
 C 1 2 N 1/15
 C 1 2 N 1/19
 C 1 2 N 1/21
 A 6 1 K 37/02
 C 1 2 N 5/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成18年5月19日(2006.5.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

配列番号1から152、ならびにそれらの機能上等価なフラグメント、誘導体およびバリエーションよりなる群から選択されるポリペプチド。

【請求項2】

請求項1に記載のポリペプチド配列をコードするポリヌクレオチド若しくはその縮重バリエーション。

【請求項3】

請求項2に記載のポリヌクレオチドを含んでなるベクター。

【請求項4】

請求項3に記載のベクターを含んでなる宿主細胞。

【請求項5】

a) ポリペプチドの発現に適する条件下で請求項4に記載の宿主細胞を培養すること；および

b) 宿主細胞培養物からポリペプチドを回収することを含んでなる、前記ポリペプチドの製造方法。

【請求項6】

請求項1に記載のポリペプチドに特異的に結合する精製された抗体。

【請求項7】

前記ポリペプチドが配列番号1、2、3、4および5よりなる群から選択される、請求項1に記載のポリペプチド。

【請求項8】

前記ポリペプチドが配列番号 115、116、117、118 および 119 よりなる群から選択される、請求項 1 に記載のポリペプチド。

【請求項 9】

配列番号 154 から 264 よりなる群から選択されるポリヌクレオチド。

【請求項 10】

製薬学的に許容できる担体とともに、治療上有効な量の請求項 1 に記載のポリペプチド またはその機能上等価なフラグメント、誘導体もしくはバリエーションを含んでなる製薬学的組成物。

【請求項 11】

前記組成物が、約 2 % ないし約 30 % の DMSO、ならびに場合によっては、プロピレングリコール、ジメチルホルムアミド、プロピレンカーボネート、ポリエチレングリコールおよびトリグリセリドよりなる群から選択される溶媒を含んでなる、請求項 10 に記載の製薬学的組成物。

【請求項 12】

前記ポリペプチドが、配列番号 1、2、3、4、5、115、116、117、118 および 119 よりなる群から選択される、請求項 10 に記載の製薬学的組成物。

【請求項 13】

製薬学的に許容できる担体、および 1 種若しくはそれ以上の製薬学的作用物質とともに、治療上有効な量の請求項 1 に記載のポリペプチド またはその機能上等価なフラグメント、誘導体もしくはバリエーションを含んでなる製薬学的組成物。

【請求項 14】

前記製薬学的作用物質が、PPAR アゴニスト、スルホニル尿素薬物、非スルホニル尿素分泌促進薬、 α -グルコシダーゼ阻害剤、インスリン感作薬、インスリン分泌促進薬、肝グルコース出力低下化合物、インスリン、抗肥満薬、HMG CoA 還元酵素阻害剤、ニコチン酸、胆汁酸抑制薬、フィブリン酸誘導体、および降圧薬よりなる群から選択される、請求項 13 に記載の製薬学的組成物。

【請求項 15】

不活性担体と組合せの有効量の請求項 1 に記載のポリペプチド若しくはその機能上等価なフラグメント、誘導体およびバリエーションを含んでなる組成物。

【請求項 16】

有効成分として請求項 1 に記載のポリペプチドを含んでなる糖尿病の治療用製薬学的製剤。

【請求項 17】

糖尿病が、1 型糖尿病、2 型糖尿病、若年者の成人発症型糖尿病、顕性自己免疫性成人糖尿病および妊娠糖尿病よりなる群から選択される、請求項 16 に記載の製剤。

【請求項 18】

有効成分として請求項 1 に記載のポリペプチドを含んでなるシンドローム X の治療用製薬学的製剤。

【請求項 19】

有効成分として請求項 1 に記載のポリペプチドを含んでなる糖尿病関連障害の治療用製薬学的製剤。

【請求項 20】

糖尿病関連障害が、高血糖、高インスリン血症、耐糖能異常、空腹時血糖異常、脂質代謝異常、高トリグリセリド血症およびインスリン抵抗性よりなる群から選択される、請求項 19 に記載の製剤。

【請求項 21】

1 種若しくはそれ以上の製薬学的作用物質と 請求項 1 に記載のポリペプチドを組み合わせたことを特徴とする糖尿病の治療薬。

【請求項 22】

製薬学的作用物質が、PPAR アゴニスト、スルホニル尿素薬物、非スルホニル尿素分

泌促進薬、 - グルコシダーゼ阻害剤、インスリン感作薬、インスリン分泌促進薬、肝グルコース出力低下化合物、インスリンおよび抗肥満薬よりなる群から選択される、請求項 2 1 に記載の糖尿病の治療薬。

【請求項 2 3】

糖尿病が、1 型糖尿病、2 型糖尿病、若年者の成人発症型糖尿病、顕性自己免疫性成人糖尿病および妊娠糖尿病よりなる群から選択される、請求項 2 2 に記載の糖尿病の治療薬。

【請求項 2 4】

1 種若しくはそれ以上の製薬学的作用物質と請求項 1 に記載のポリペプチドを組み合わせたことを特徴とするシンドローム X の治療薬。

【請求項 2 5】

製薬学的作用物質が、PPAR アゴニスト、スルホニル尿素薬物、非スルホニル尿素分泌促進薬、 - グルコシダーゼ阻害剤、インスリン感作薬、インスリン分泌促進薬、肝グルコース出力低下化合物、インスリンおよび抗肥満薬よりなる群から選択される、請求項 2 4 に記載のシンドローム X の治療薬。

【請求項 2 6】

1 種若しくはそれ以上の製薬学的作用物質と請求項 1 に記載のポリペプチドを組み合わせたことを特徴とする糖尿病関連障害の治療薬。

【請求項 2 7】

糖尿病関連障害が、高血糖、高インスリン血症、耐糖能異常、空腹時血糖異常、脂質代謝異常、高トリグリセリド血症およびインスリン抵抗性よりなる群から選択される、請求項 2 6 に記載の糖尿病関連障害の治療薬。

【請求項 2 8】

製薬学的作用物質が、PPAR アゴニスト、スルホニル尿素薬物、非スルホニル尿素分泌促進薬、 - グルコシダーゼ阻害剤、インスリン感作薬、インスリン分泌促進薬、肝グルコース出力低下化合物、インスリンおよび抗肥満薬よりなる群から選択される、請求項 2 7 に記載の糖尿病関連障害の治療薬。

【請求項 2 9】

HMG CoA 還元酵素阻害剤、ニコチン酸、胆汁酸抑制薬、フィブリン酸誘導体および降圧薬よりなる群から選択される 1 種若しくはそれ以上の作用物質と請求項 1 に記載のポリペプチドを組み合わせたことを特徴とする、糖尿病、シンドローム X 若しくは糖尿病関連障害の治療薬。

【請求項 3 0】

糖尿病関連障害が、高血糖、高インスリン血症、耐糖能異常、空腹時血糖異常、脂質代謝異常、高トリグリセリド血症およびインスリン抵抗性よりなる群から選択される、請求項 2 9 に記載の糖尿病、シンドローム X 若しくは糖尿病関連障害の治療薬。

【請求項 3 1】

請求項 1 に記載のポリペプチドおよび 1 種若しくはそれ以上の製薬学的作用物質が単一の製薬学的投薬製剤として投与されることを特徴とする請求項 2 1 ないし 3 0 のいずれか 1 つに記載の治療薬。

【請求項 3 2】

有効成分として請求項 1 に記載のポリペプチドを含んでなる糖尿病の二次的原因の治療薬若しくは予防用製薬学的製剤。

【請求項 3 3】

二次的原因が、グルココルチコイド過剰、成長ホルモン過剰、褐色細胞腫および薬物性糖尿病よりなる群から選択される、請求項 3 2 に記載の製剤。

【請求項 3 4】

1 種若しくはそれ以上の製薬学的作用物質と請求項 1 に記載のポリペプチドを組み合わせたことを特徴とする糖尿病の二次的原因の治療薬若しくは予防薬。

【請求項 3 5】

製薬学的作用物質が、PPARアゴニスト、スルホニル尿素薬物、非スルホニル尿素分泌促進薬、 α -グルコシダーゼ阻害剤、インスリン感作薬、インスリン分泌促進薬、肝グルコース出力低下化合物、インスリンおよび抗肥満薬よりなる群から選択される、請求項34に記載の治療薬若しくは予防薬。

【請求項36】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる呼吸器疾患の治療用製薬学的製剤。

【請求項37】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる肥満の治療用製薬学的製剤。

【請求項38】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる食欲の調節用製薬学的製剤。

【請求項39】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる心血管系疾患の治療用製薬学的製剤。

【請求項40】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる脂質および炭水化物代謝の障害の治療用製薬学的製剤。

【請求項41】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる睡眠障害の治療用製薬学的製剤。

【請求項42】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる男性の生殖障害の治療用製薬学的製剤。

【請求項43】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる成長障害若しくはエネルギー恒常性の障害の治療用製薬学的製剤。

【請求項44】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる、免疫疾患の治療用製薬学的製剤。

【請求項45】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる自己免疫疾患の治療用製薬学的製剤。

【請求項46】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる急性および慢性炎症性疾患の治療用製薬学的製剤。

【請求項47】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる敗血症ショックの治療用製薬学的製剤。

【請求項48】

有効成分として請求項1に記載のポリペプチドを含んでなる被験体におけるグルコース依存性の様式でのインスリン放出の刺激用製薬学的製剤であって、該ポリペプチドがそれの必要な被験体に投与されることを特徴とする製剤。

【請求項49】

治療上有効な遺伝子治療ベクターとともに請求項2に記載のポリヌクレオチドを含んでなる遺伝子治療組成物。

【請求項50】

糖尿病および糖尿病関連障害の処置および／若しくは予防のための請求項1に記載のポリペプチド。

【請求項 5 1】

最低 1 種の製薬学的に許容できる製薬学的に安全な担体若しくは賦形剤とともに請求項 1 に記載の最低 1 種のポリペプチドを含有する医薬。

【請求項 5 2】

糖尿病および糖尿病関連障害の処置および / 若しくは予防のための医薬の製造のための請求項 1 に記載のポリペプチドの使用。

【請求項 5 3】

糖尿病の処置および / 若しくは予防のための請求項 5 1 に記載の医薬。